



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2022年5月13日発行 第49号

コロナ禍がなかなか明けない中、慌ただしく2022年度が始まりました。年度終わりに開催しているファミリーコンサートが延期となり、年度始まりの「新年度ガイダンス」と同時開催となりました。

さて、今回のコンサート終演式・2021年度修了式を最後に米山道雄氏が学長職を退かれることになりました。平成17年に「出雲芸術アカデミー音楽院」創設当時から学長として16年間率いてくださいました。全国でも珍しい当音楽院を立派に成長させていただいた功績は、米山学長の人望と音楽に対する熱意の賜物と感謝いたします。学長職は退かれますが、名誉学長として今後も見守っていただくこととなります。また、幼児科及び音楽入門コースの教授としてもかかわっていただけることになり、音楽を通した幼児教育の発展に寄与していただけることになりました。

後任には、副学長から学長に就任いたしました桑原雅次です。前学長の後を引き継ぐことはとても大きな責任を感じていますが、自分なりにできることを精一杯頑張ろうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。そして、新たに新生を迎え2022年度が始まります！

◎ ファミリーコンサートで締めくくり！

コロナ感染症の影響で延期となっていたファミリーコンサートを、5月7日及び8日の2日間にわたり開催いたしました。その様子を振り返りながら紹介いたします。

【幼児から小学生4年生までのワクワクステージ！】 5月7日（土）開催

《幼児科》

幼児科の発表は、親子で表現することを基本にしています。衣裳や太鼓も手作りです。「大きなたいこ」では、保護者が差し出す手作り太鼓（空き缶）に子どもがバチでドーン、ドーンと打つ姿はとても微笑ましい場面でした。「大きなぼうし」は、講師の皆さんによる演技に導かれ、様々な動物にかぶせる帽子をイメージさせながら大きい帽子、小さい帽子をかわいらしく表現していました。「ヤマタノオロチ」は、幼児科の伝統演目であり、これも手作りの手袋をオロチに見立て、巧みな表現に感心させられました。

《本科》

キッズアンサンブル＆キッズコーラスの発表は、「語りかけよう」「春がきた～春の小川」を児童合唱として歌いあげました。アンサンブルのメンバーとコーラスの



裏面へ

メンバーがそれぞれひな壇を活用した動きのある表現で、立体的なステージが印象的でした。「にじ」という曲では、歌いながらハンドベルにも挑戦し、息の合った歌声とベルのハーモニーがかみ合い、練習の成果が発揮できた素敵な演奏となりました。

【小学生から高校生までの合唱とオーケストラのステージ！】 5月8日（日）開催

《本科》

2日目は、ジュニアコーラスのステージからです。映画「サウンド・オブ・ミュージック」からベルの音と共に「アレルヤ」のコーラスを奏でながら入場し、ホールが教会と化したような雰囲気にも包まれたようでした。続いて、ミュージカル「レ・ミゼラブル」から「民衆の歌声が聞こえるか？」を高らかに歌いあげました。



2曲目は、頌歌「天地のるつぼ」―出雲讃歌―です。大岡 信 作詩/鈴木輝昭 作曲によるこの曲は、出雲市の委嘱により 2001 年に産声をあげ、以来、歌い継がれてきたものです。本来は、オーケストラと共に全曲を披露するはずでしたが、コロナ禍の影響でピアノ伴奏に変更し、ⅡとⅣを抽出した形で披露いたしました。しかし、この2曲でもジュニアコーラスの皆さんの熱唱により、出雲讃歌の神髄が脈々と伝わってきました。個人的な感想ですが、私はⅣの歌いだしの場面、「優しさだけでは 生きられない…」が流れると、いつも心がジーンときます。詩のもつ重みと、この詩にはもうこれ以上のメロディーは考えられないほどの出会いが、感動を呼んでいるのではと感えているところです…。

最後は、「スタジオジブリメドレー」4曲を楽しく歌いあげ、馴染みのある曲だけに会場全体が和やかな雰囲気となり、ジャズ風のアレンジもあり気持ちも軽やかになったところで爽やかにエンディングを迎えました。

Jr.オーケストラは、まずBO（ベーシックオーケストラ）クラスと弦楽器入門の発表です。「ブルー・タンゴ」は、初めての合奏としては難しい曲ですが、無難な曲よりも少しレベルの高い曲の方がやり甲斐がありますので、その期待に見事に応えてくれたようです。



コンサートの最後は、SO（シンフォニーオーケストラ）です。ベートーヴェンの歌劇「フィデリオ」序曲をこれから始まる歌劇の導入曲として、内容にせまる迫力が感じられました。次に、チャイコフスキーの「イタリア奇想曲」は、SOの皆さんの合奏力の高さに驚き、心を釘づけにしてくれました。クライマックスの、高揚感あふれる演奏に、会場の皆さんからはち切れんばかりの拍手が素晴らしい演奏であったことの証であったように思えます。そして、アンコール曲「花のプロセッショナル」で心を静めるように幕を閉じました。



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】